第13回　短編恋愛小説「深大寺恋物語」　募集要項

【募集内容】

関東有数の古刹である天台宗別格本山「深大寺」の発祥は、その名前の由来でもある「深沙大王」という神様にまつわる「縁結び」の物語に由来する、と伝えられています。「深大寺」という歴史あるお寺、その門前に位置する数多くの「そば屋」や「お土産屋」、そして「東京都立神代植物公園」をはじめとする、その界隈の「豊かな自然や花と緑」を盛り込んだラブストーリーを募集します！

【応募規定】：

・公式サイトに掲載の専用応募フォームからの応募を推奨。メールに直接記入やＰＤＦは不可

・事務局への持ち込みはご遠慮ください。（事務局郵便受け投函はＯＫ）

・Ａ４サイズ、「横向縦書」、４０文字×２０行設定で１枚８００文字、空白も含み５枚以内。
　手書きの場合に限り、１枚４００字設定の原稿用紙１０枚でも可。ただし清書であること。）

・一度提出した原稿の修正、並びに規定に合っているか等の問合せは不可。

・１人１作品のみ応募可。未発表のオリジナル作品に限る。※発表済の類似作品が見つかった場合は入賞を取り消します。

・小説執筆の前に必ず添付の井上荒野先生の選評をご一読ください。

■〔推奨〕公式サイト上の専用フォームから応募する場合

・公式サイトに掲載の「ネット送信用原稿フォーマット」（ワード）を使用すること。

・原稿には本文及びページ番号以外一切記載しないこと。

・原稿ファイルのファイル名に作品タイトルをつけること。

■郵送で応募する場合

・公式サイトに掲載の「郵送用表紙フォーマット」（PDF）を印刷して原稿と合わせて応募すること

・郵送用表紙フォーマットをダウンロードできない方は、原稿とは別に手書きの表紙を用意し、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、作品のタイトルを記載。

・原稿は表紙を除いてページ番号をふること。原稿は綴じず折らずに送ること。（ＦＡＸは不可）

【応募資格】：不問

【審査員】村松友視、井上荒野、清原康正

【賞　金】：最優秀賞１０万円（１編）、　審査員特別賞５万円、　調布市長賞　など

【応募締切】：２０１７年７月３１日（月）１３時（必着）

【発　表】：２０１７年１１月末に開催予定の「深大寺そばまつり」並びに「深大寺恋物語公式ＨＰ」

【主　催】：深大寺短編恋愛小説実行委員会

【協力（予定）】：アカデミー愛とぴあ、深大寺奉賛会、深大寺そば組合、調布タウン誌１８２、Ｊ：ＣＯＭ調布・世田谷、調布エフエム放送株式会社、林建設株式会社

【後援（予定）】：調布市、深大寺、（公社）調布青年会議所、（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市商工会、調布市教育委員会、調布市観光協会、（福）調布市社会福祉協議会、調布市文化協会、株式会社角川大映スタジオ、日活調布撮影所、京王電鉄株式会社、京王電鉄バスグループ、小田急バス株式会社

【応募先】：**公式サイトに掲載の専用フォームからの応募を推奨**〔専用応募フォームからの応募ができない場合に限り、郵送も可〕

〒１８２―００２６　東京都調布市小島町２―４０―１０　ＣＦビル２Ｆ　深大寺短編恋愛小説実行委員会事務局　宛て

【問い合わせ】電話：０４２－４８７－４２８２　E-Mail：novel@chofu.com

【諸権利】：入賞作品の出版権、上映権、映像化権等の諸権利全ては主催者及び共催者に帰属。また、主催者及び共催者は、全ての応募作品について、その作品をホームページ等で掲載させていただく権利を有するものとします。

【その他】：応募作品の返却はいたしません。

【執筆の前にご一読ください】

第七集、井上荒野先生の選評の抜粋「小説と読み物と」

回を重ねるうち、応募作の質は大まかにいって二方向に分かれてきたと思います。つまり、小説と読み物とに。

私の分類法では、（毎回、このことを言いますが）、粗があっても、破綻があっても、その作者にしか書くことができないもの、その作者がそれを書く意味を持っているものが、小説です。読み物というのは、すでに世の中に出回っている物語のパターンを、登場人物や設定を変えて（この賞の場合だったら、舞台を深大寺にして）焼き直しただけのもの。安心して読めますが、衝撃も興奮もない。最初の五行を読んで予想した通りの結末になるもの。

私が選びたいのは、言うまでもなく小説のほうなのです。

これから書いてみようという方々への、ひとつの提案ですが、たとえば次のような制約を課してみてはいかがでしょうか。

1、初恋の人を登場させない／登場させても良いが、三十年後に深大寺で偶然会わせたりしない。

2、恋人、あるいは伴侶を病気とか事故で死なせない／死なせても良いが、死んだあとでその人と面影が似た人と偶然出会ったりさせない。あるいは、その人が生前遺した手紙か何かを、三十年後に偶然見つけたりさせない。

3、「意地っ張りで男勝りで不器用なワタシ」と「天然なアイツ」の組み合わせを使わない／使っても良いが、この組み合わせは少女漫画で使い古されたパターンであり、よほど突出したものがないと評価は得られない、ということを認識する。

「偶然」は、なるべくなら使うのをやめましょう。使う場合は、それを小説の本筋とからめないことです。

第八集、井上荒野先生の選評の抜粋「あなたがそれを書く意味」

（最終審査をした）候補作十八篇のほとんどが、まるで印象に残らない。ひとつにはタイトルの付け方のいいかげんさ、そしてもうひとつは、どれもが「どこかで読んだことがあるような物語」だったせいだと思います。

小説とも言えないつまらない読み物を読んでいると、「作者たちは、これを書いているとき、いったい面白かったのだろうか？」と思います。そこら辺にいくらでも転がっている筋書きの細部を深大寺向きにちょっと直してみる。そんなものは創作ではなくて漢字の書き取りに近いものです。

なぜ自分はこの物語を書きたいのか。ほかの誰でもなく「自分が」その物語を書かなければならない意味はどこにあるのか。どうかそれを考えてください。小説を書こうと思うなら（ばかばかしいほど当たり前のことですが）小説をたくさん読むことも大切です。その際に、「さくさく読める」ものばかりではなく、ハードルの高い、読むのに多少の努力を要するものにも、チャレンジしてみてください。ハードルを越えたときに、あなた方が知らなかった「面白さ」や「感動」に出会えると思います。たぶん、あなた方が知っているよりも、無数のすばらしい小説が、この世界にはあるのです。そのすばらしさを、どうぞ体験してください。

（今回は）作者にしか書けない一行、作者が自分自身の感性で感じ取った何か。それがひとつでもあった作品を、評価しました。

ただ、ムードに流されて、くどくなっている箇所が幾つか。十行使って書いているところを、五行であらわせないかどうか、考える練習をしてみてください。言葉を連ねるのではなくて、選ぶことです。